

無理が通れば



東郷 潤

悪戸ミル吉さんは、刺青太郎さんをいつも差別しています。



その悪戸さんは、間違いを指摘されると、すぐに感情的になって激しく怒ります。

刺青さんは、
そんな人じゃ…



じゃ、俺が
悪いって
いうのか！？



もしかすると悪戸さんは、自分が「悪」
になることを、無意識に怖がってい
るのかもしれないね。



さてそんな怒りっぽい悪戸さんが、
もし物理的にも経済的にも社会的に
も、とっっても強かったらどうでしょ
う？



**俺には権力も金も
武器もある。
力も強い。**

俺は無敵だ！

**おい、善戸。
俺は何か間違っているか？**



**い、いえ、とんでも
ありません！
あなた様はいつも
正しいのです！**



**おい、刺青。お前はどうか？
何か不満があったら言ってみろ**



**い、いえ、とんでも
ありません！
あなた様に悪い
ところなど、何
一つ、ありません！**



強く狂暴な悪戸さんに、意見する人など一人もいません。たとえそれが一番の被害者、刺青太郎さんであったとしても、です。

差別を我慢し放置する方が、狂暴な

怒りにさらされるよりも、たいていはマシなものなのです。

おい、お前はクズだな！？



**はい。私は
クズです**

こうして悪戸さんの間違いを誰ひとり指摘しなければ、悪戸さんの間違った認識／差別は固定化されてしまいかもしれません。ずっと、ずうっと・・・

負ける喧嘩をする、そんな奇妙奇天

烈な人が現れでもしない限り。



あとがき ー絵本「無理が通れば」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を

除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013